

第2回



景観行政における今後の施策の方向性に関する検討懇話会

令和7年12月17日（水）
兵庫県まちづくり部都市政策課

スケジュール

第1回懇話会（11月17日(月)）

- 景観行政の運用状況(現状・課題)
地域・地区等の指定状況、市町アンケート調査結果等
- 全国の景観行政の先進事例紹介
- 県内市町の取組事例紹介
- 3つの観点について意見交換

第2回懇話会（12月17日(水)）

- テーマ及び観点ごとに今後取り組むべき内容を検討

第3回懇話会（2月3日(火)）

- まとめ（提言(案)の取りまとめ）

条例制定40周年記念イベント（3月20日(金)予定）

- ✓ 建築士やヘリテージマネージャーなどの専門家が地域と連携し、景観資源を核とした「まちづくり」を実現できるよう、どのような仕組や取組が必要か。

<前回の主なご意見>

- 地域が主体となって景観資源を守る制度(景観形成等住民協定等)があることが、住民に十分に伝わっていない。さらに分かりやすい周知やシステム化が必要ではないか。
- 住民の意見を取り込む仕組をつくり、住民のアイデアを景観政策に結び付けてはどうか。
(例:加古川市版Decidim(デシディム))
- ひょうごの景観ビューポイント150選出前講座の裾野を広げ、県内の高等学校の地域学習の時間等でひょうごの景観を学ぶ講座を追加し、景観まちづくりの**担い手育成**にも取り組んではどうか。
- 大学生の研究調査による次世代の**担い手候補**と地域のつながりの構築も効果的ではないか。
- 景観を支える人にフォーカスを当てて、実績、事例、人柄などとあわせて**情報発信**することは、先進的で景観まちづくりの推進に有効ではないか。また、信頼のある行政(県)が紹介した人だと相談者に安心感を与える。



今後取り組むべき方向性

地域が主体となった 景観まちづくり

- エリアマネジメントの取組により景観資源の活用を促進
- 地域主体で景観資源を守る制度の周知及び見直し
- 地域住民のアイデアを取り込む仕組づくり

景観まちづくりの 担い手の育成

- エリアマネジメントの担い手となる民間事業者を発掘・育成
- 景観まちづくりを担う未来の人材を育成

景観まちづくりの取組に 関する情報発信

- 景観まちづくりの取組や実績、キーマン等を広く発信

- ✓ 観光・地域振興においては景観資源の活用は有効な手段と考えられる。地域の住環境等への影響を考慮しながら、観光・地域振興を図るために、どのように景観資源を活用し、その魅力を発信することができるか。

<前回の主なご意見>

- 情報発信は、①既存SNSのフォロワーの活用、②全世界が見るツール(YouTube、Netflix等)の活用、③インフルエンサー等の発信力の高いコンテンツとの連携、④動画などの動的景観のPRが効果的ではないか。
- 景観資源の魅力を第三者によって情報発信することが地域の活性化には必要である。
- 景観形成地区等は、地方都市部を中心に指定されているが、県内の農村や中山間地域には魅力的な景観資源(棚田など)があるため、新たに掘り起こしてみてはどうか(現在は、多可町加美区箸荷地区、佐用町田和地区について景観形成等住民協定を認定している。)。



今後取り組むべき方向性

地域景観の特性や魅力を 情報発信

- ひょうごの優れた景観を広く発信する専用ホームページの整備
- インフルエンサー等を活用した地域景観の魅力発信

関係部局と連携した 景観資源の活用

- 観光、産業振興等の担当部局と連携した景観資源のPR

新たな景観資源の発掘

- 多自然地域における新たな景観資源の発掘

- ✓ 景観形成重要建造物や景観遺産の所有者等が適切な維持管理を継続的に行っていくためには、修景助成のほかにどのような取組が必要か。

<前回の主なご意見>

- 各地域に**ヘリテージマネージャー等**の景観まちづくりを担う人材はいるが、**市町との関係が薄く、体制(マンパワー、意識)も十分に整っていない。**
- 事業性が期待できない**小規模な建造物**を単体で活用することが難しいため、**面的な活用について助成する**など柔軟な支援を期待したい。



今後取り組むべき方向性

建造物等の保全・活用に係る 相談窓口の一元化

- 建造物の保全・活用に関する地域ごとの総合的な相談窓口を設置
- 景観資源の情報の収集・共有するため市町との連携を強化

景観保全を支える ネットワークの構築

- 景観保全に関する技術的ノウハウの蓄積・共有の仕組みづくり
- 市町、文化財等の関係部局との連携を強化

修景等に関する支援の見直し

- ふるさと納税等を活用した保全・活用の支援

景観行政の今後の方針

これまでの景観行政は、優れた景観の創造と保全に力を注ぎ、地域の魅力を育んできた。

これからは、その成果を活かし、未来へと継承していくことに焦点を当て、**市町との密な連携の下、景観まちづくり団体による活動を軸として、景観資源を守りながら新たな価値を創出する取組**を推進する。

県

■ 景観行政での新たな施策案

- 景観資源の魅力や景観まちづくり活動の情報発信
 - ・専用ホームページの整備による景観資源や景観まちづくり活動の効果的な情報発信 ⇒ **施策案1【観点①②】**
 - ・景観ツアー(現地体験)を通じた地域の魅力発信 ⇒ **施策案2【観点①②】**
- ふるさと納税等を活用した支援 ⇒ **施策案3【観点①③】**
- 建造物等の保全・活用に係る地域ごとの相談窓口の一元化 ⇒ **施策案4【観点③】**
- 地域住民のアイデアを取り込みやすくする仕組みづくり【観点①】
- 景観まちづくりの担い手となる人材育成【観点①】
※「エリアマネジメントへの支援」でも実施中
- 多自然地域が形成する新たな景観資源の発掘【観点②】

実施中

エリアマネジメントへの支援

- ・担い手育成 ・団体認定 ・立上げ支援 ・活動支援

【観点①】

古民家再生促進支援事業

- ・建物調査 ・再生提案 ・改修工事費補助

【観点③】

景観保全

地域の魅力を高め、
人の流れと経済活動
を生む

建物の修繕・活用

エリア価値の向上

「まち」の
好循環

地域への
投資

連携

再投資
意識向上

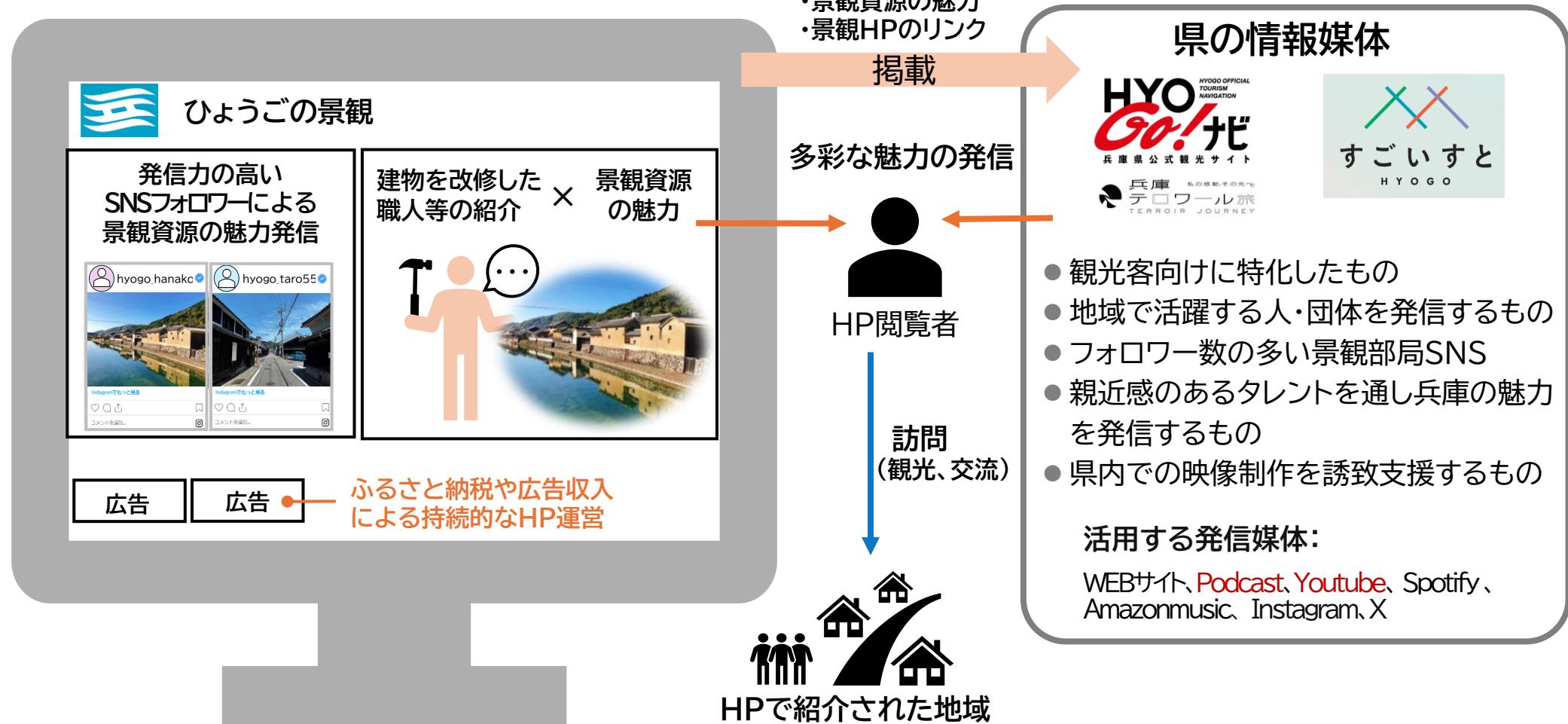
市町

- ・景観まちづくり団体の活動支援
- ・情報発信・啓発活動
- ・地域情報の収集・共有
- ・部局内連携・意識啓発
- ・景観修景助成(補助随伴)

行政主導や補助金頼みではなく、**地域と企業・団体に利益が還元される民間主導の循環型の景観まちづくりへ転換**を図る。

景観資源の魅力や景観まちづくり活動の情報発信

- ・県内の優れた景観を効果的に伝える専用ホームページを新たに作成
- ・気に入った景観や風景を応援したくなる「仕掛け」をサイト内に設け、ふるさと納税や寄附、来訪へ誘導
- ・既存の観光や地域振興を目的とした他部局の情報媒体に積極的に景観資源を掲載



景観ツアー(現地体験)を通じた地域の魅力発信

- 景観に関心を持つファンとつながるため、地域の特産品や取組、事業の情報をホームページ・SNS等で配信
- 景観資源と深く関係する歴史、食文化、産業の関係部局と連携した各地区のモデルコースの紹介や景観ツアー(現地体験)を企画・実施
- インフルエンサーとのタイアップによる情報発信

景観ツアーの実施

地域が保有している価値
「地域らしさ」

そこでしかできない体験
新しい価値観の提供

ツアーパートナー



地域

SNS等で魅力発信

佐賀県の事例



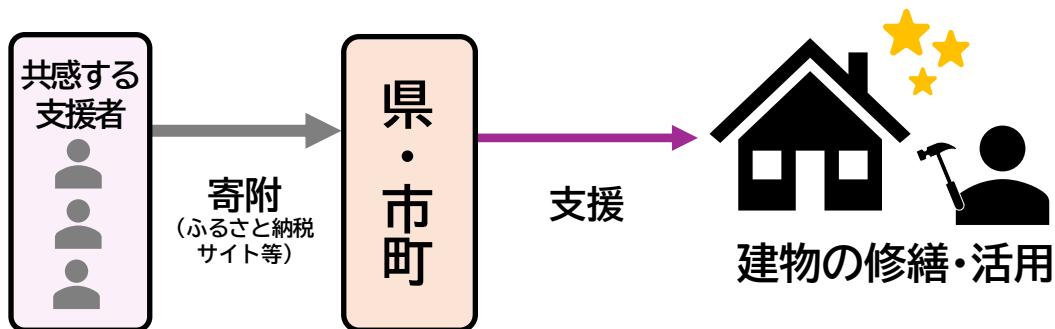
バスツアーによるターゲットを絞った佐賀県遺産の普及啓発事業

- 多くの方々に佐賀県遺産を知ってもらうきっかけづくりのため、「佐賀県遺産バスツアー」を開催
- 時期を決めて実施することで、1年のうちでも短い期間に限られる花木が見頃の絶景スポットや普段公開していない建造物を専門家の解説付きで特別公開している。

ふるさと納税等を活用した支援

- 地域の課題解決や活性化に資するような景観形成に寄与する建造物等の維持管理や活用に対して、ふるさとひょうご寄附金等を活用した支援を行うことで、持続的な保全や活用につなげる。

<ガバメントクラウドファンディングのイメージ>



■ガバメントクラウドファンディングのメリット

(寄附者)

- 自分が関心のあるプロジェクトに直接寄附できる
- プロジェクトは地方自治体が認定したものであるため、支援者は安心して寄附できる

(活用者＆地域)

- 広く資金調達ができる
- 地域や建築物のプロモーション効果
- 地域や建築物のファン拡大

神戸市の事例

神戸歴史遺産へのクラウドファンディングを利用した寄附募集



地域で大切にしてきた伝統行事や建造物などを広く認定し、HPなどによりPRしている。

「ふるさと納税」を活用して助成を行い、これらの建造物などの修理や公開などを行っている。

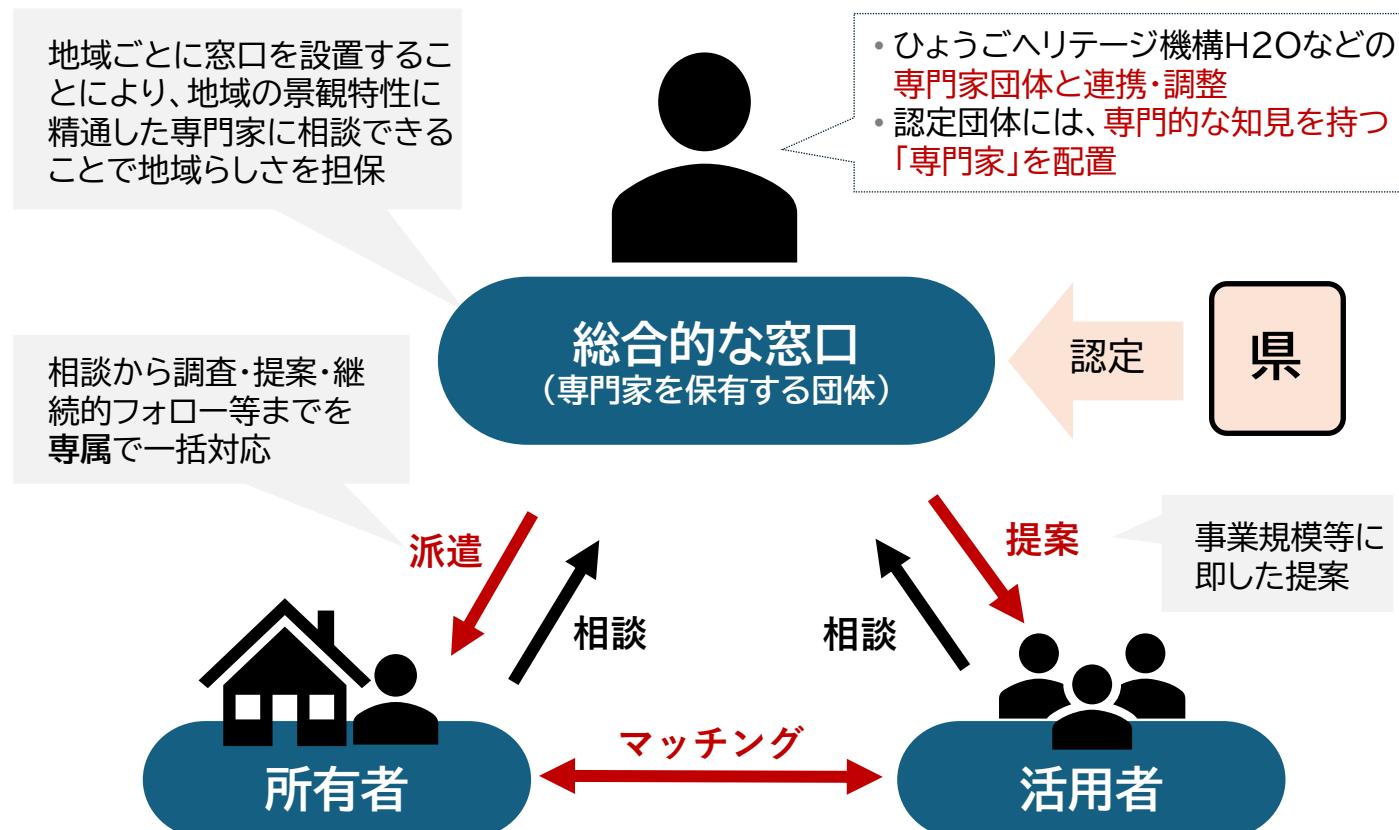
「風見鶏の館」耐震補強工事へのクラウドファンディングを利用した寄附募集



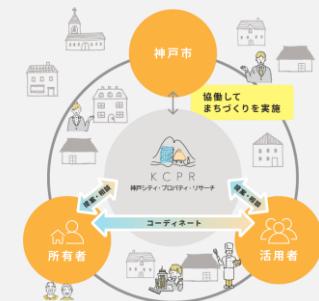
寄附金額:4,417,500円
(達成率220.8%)

建造物等の保全・活用に係る地域ごとの相談窓口の一元化

- 維持保全から活用に関する総合的な相談を一元的に対応できる窓口を地域ごとに設置
- 所有者が安心して相談できるよう、窓口となる団体を公的に認定し、信用力を付与
- 窓口となる団体は、所有者と活用希望者のマッチングや、活用希望者への事業に即した提案も行う等、活用を促進



神戸市の事例 (一財) 神戸シティ・プロパティ・リサーチ



- ### 歴史的建築物の保存・活用への取組
- 神戸市と連携して歴史的建築物や遊休不動産の所有者、活用を希望する事業者に対し、無償で相談対応・現地調査・活用提案などの支援を行っている。